

郷土博物館だより

令和7年度企画展「戸田と戦争(仮称)」

2025.8/2(土)～10/5(日)



今年2025年(令和7)は、アジア・太平洋戦争が終結してから80年になります。日本は、明治時代から昭和時代にかけて中国、ロシア(旧ソビエト連邦)、アメリカ等を相手に戦争をしてきました。

特に1937年(昭和12)から1945年(昭和20)まで、日中戦争、アジア・太平洋戦争と続き、戦争末期には、働き盛りの男性だけでなく10代の少年までもが徴兵されました。当時農村地帯であった戸田でも、物資不足や、下戸田と美女木にあった高射砲陣地等を標的とした空襲に苦しめられました。しかし、戦後80年が経過しようという今、戦争体験者はますます少なくなってきています。日本が戦争をした事実や悲惨な体験は、教科書や終戦記念日等で見聞きする遠い過去の出来事になりつつあります。

こうした状況を踏まえ、本展では、郷土博物館で収蔵する戦争関係資料から、日本がどの戦争に関わっていたのか、徴兵された兵士や戸田の人々が戦時中どのような生活を送ったのか見ていきます。この機会に、戦争とはどのようなものなのかを考えてみませんか。

◆目次

令和6年度郷土博物館40周年記念祭レビュー	2-3
令和6年度ロビー展レビュー	4
令和6年度第30回企画展レビュー	5
令和6年度第31回企画展レビュー	6

令和6年度かけはし高校アート展示レビュー、	
令和6年度昔のくらし展レビュー	7
令和6年度講座報告、収蔵庫情報46	8



戸田市立郷土博物館

令和6年度講座報告

2024年に開館40周年を迎えた郷土博物館では、40周年記念イベント関連講座を開催しました。まず8月には、ベーゴマやフラフープ、お手玉やおりがみなど、昭和時代の遊びを中心とした内容の講座を、参加者に自由に体験してもらう形式で開催しました。11月2日・3日開催の40周年記念祭の中で実施した講座では、初日に火おこしと黒曜石で紙を切る体験を、二日目に昔の農家で使われていた様々な道具の体験を行いました。通常の子ども体験ひろばとは異なり、対象年齢を設けないことで、非常に多くの小さなお子さんや家族連れの方の参加がありましたが、博物館ボランティアさんのご協力もあって、事故やケガもなく無事に終えることができました。郷土博物館では、このほかに通常の「子ども体験ひろば」の講座として、10月の「ヤゲンでものをすりつぶそう」や2月・3月の「昔の道具を使ってみよう」等、さまざまな講座を開催しました。



ボランティアさんといっしょに、おりがみ体験

収蔵庫情報.....〈46〉

給食用食器

1957年(昭和32)以降、戸田市内の小学校や中学校の学校給食で使われた食器です。郷土博物館では、小学校や学校給食センターから寄贈されたものを、学校生活の様子を後世に伝える資料として所蔵しています。

給食用食器と一口に言っても材質や形も様々です。使っていた年代などによって色々と違っていたり、逆に全く違う年代のものなのに似ている部分があったりします。例えば食器の材質は、1970年(昭和45)頃を境にアルマイト製からポリプロピレン製へと変わりますが、どの年代でも似た形のボウル形の食器が使われています。また、年代が新しくなると、ワンプレートのお皿など新しい種類の食器が登場します。

郷土博物館の常設展示で給食用食器は展示していませんが、毎年行っている「昔のくらし展」では、「昭和30年代の給食」、「昭和60年代の給食」として当時の給食を再現した状態で展示しています。普段あまり意識することのない食器ですが、自分が給食で使っていたものを思い出しながら、展示されているものとどこが違っているのか、どこが似ているのかという点に注目してみると面白いかもしれません。



給食用食器

(左：アルマイト製 / 右：ポリプロピレン製 / 中央：ワンプレート皿)



郷土博物館だより 第51号

■発行：令和7年3月26日 ■編集・発行：戸田市立郷土博物館

〒335-0021 埼玉県戸田市大字新曽1707番地 TEL 048-443-5600 FAX 048-442-8988

URL <https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/377/>

E-mail hakubutu@city.toda.saitama.jp

■印刷／有限会社宮園印刷